

事業番号 【1】 1

平成25年度 外部評価 事業評価シート（平成24年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	【2】	広報広聴推進事業						
事業期間	【3】	開始年度	昭和30年 ~	終了予定年度	—	担当部	企画部	
総合計画	【4】	めざすまちの姿	総合計画の推進に向けて			担当課	企画政策課	
		基本計画【施策】	市民の満足度を高め、効率的で効果的な行財政経営の推進			担当係	秘書係	
		成果指標	市からの市政情報の提供に満足していると答える市民の割合			中間目標 (H27)	50%	
関連予算科目	【5】	一般 会計	2 款	総務費	1 項	総務管理費	3 目	広報広聴費
		予算事業名	事業1	014	広報広聴費			
		事務事業名	事業2	020	広報広聴推進			
位置づけ	【6】	関連計画						
		根拠法令						
実施主体	【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	【8】	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象（誰のため）	【9】	<input checked="" type="checkbox"/> 全市民 <input type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他						
事業の目的（何のため）	【10】	市政について、広く市民に情報提供し共有化を図る。 また、インターネット、報道機関などへの情報提供を積極的に行い、市内外に市の魅力をPRする。						
内容（概要）	【11】	①「広報こさい」の発行（毎月1回 15日に発行） 地域の出来事や生活に密着した情報を市民に提供するため、全世帯を対象に「広報こさい」を発行する。 ②「市役所だより」の発行（毎月2回 1日・15日に発行） ③「市ウェブサイト」の運営 市広報活動の一環としてウェブサイトを活用し、イベント情報や広報紙等の情報を発信する。 ④広聴活動 ウェブサイトの「ふれあいポスト」、「あなたのアイデアを市政に」で広く市民から意見・提言をもらう。						
これまでの改善・見直しの状況	【12】	○市ウェブサイト（ホームページ） H12.3 市ウェブサイトの開設 H23.3月 市ウェブサイトリニューアル ・デザイン性の向上、様々な機能追加などの結果、アクセス数が大幅にアップした。 ・H22までのホームページは、情報を随時、広報の担当課が更新していた。 各課が随時更新をすることが可能となり、迅速に情報提供できる環境となった。 ○広報こさい H24.4月 広報こさいのフルカラー化とページ数の削減 ・「いかにより多くの人に見てもらおうか」ということを考慮し、情報量を絞り込み見やすさを重視した。						

2. コスト 【13】

		単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度決算の内訳
事業費(A)	予算	千円	18,351	14,265	11,624	(内訳) ※支出内容の詳細
	決算	千円	16,181	10,191	11,624	
財源内訳	国庫支出金	千円				○報酬 広報配達員 86人 4,393
	県支出金	千円	2,331	212	71	○旅費、消耗品等 224
	地方債	千円				○印刷製本費 4,127
	その他	千円	310	585	350	○委託料
	一般財源	千円	13,540	9,394	11,203	ウェブサイト運用・保守業務 735
人件費(B)	千円	10,713	10,951	10,765	広報等配達業務 604	
人工(職員数の内訳)	人	1.32	1.47	1.45	○負担金 県広報協会等 108	
トータルコスト(A)+(B)	千円	26,894	21,142	22,389	10,191	

3. 事業の評価

事業の実施状況

内容		単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
活動指標	市ウェブサイト（ホームページ）アクセス総数	件	目標	230,000	240,000	250,000
			実績	299,322	349,445	
			達成率	130.1%	145.6%	0.0%
	「あなたのアイデアを市政に」投稿数	件	目標	100	100	
		実績	17	17		
		達成率	17.0%	17.0%	#DIV/0!	
実績・改善	平成24度活動内容・実績 [14]	①「広報こさい」の発行 … 4,047千円 ・発行日 毎月15日発行（年12回） ・発行部数 20,300部/月（4月～8月）、20,400部/月（9月～3月）A4判7カラー全戸配布 ②「市役所だより」の発行（毎月1日・15日に発行） ・発行部数 2,670部 回覧 ③「市ウェブサイト」の運営 … 735千円 ④ 広聴活動 ・ウェブサイトの「ふれあいポスト」で市民からの意見・提言を受付。 ・広報こさい折り込みの「あなたのアイデアを市政に」で市民からの提案を公募。				
	課題・問題点となった事項 [15]	・市外への情報発信は、ウェブサイトのみとなっている。 ・「あなたのアイデアを市政に」の投稿件数が少ない。				
	課題にどう対処したか(改善等) [16]	・定例記者会見の開始（H25.2月から開始し、以降、毎月1回開催） 市政情報やイベント行事などを、より多くの人に周知するとともに、マスコミを通じて本市の魅力などを市内外に発信、PRすることとした。 ・「ふれあいポスト」「あなたのアイデアを市政に」以外の意見聴取する方法を検討し、平成25年度中に実施する。				
[17] [評価の視点]						
自己評価	必要性	A	・市民ニーズ、緊急性、法的根拠など市が主体的に実施する必要性は高いか ・事業実施の意義や必要性が変化していないか ・情性的に実施していないか			
	有効性	B	・成果が上がり、期待したとおりの効果が上がっているか。 ・目標に対しての達成度はどうであったか。 ・成果に向けた行政の活動量は十分であったか。・上位施策への貢献度は高いか。			
	効率性	B	・業務のOA化や外部委託、その他の方法により業務の効率化を図ることができないか。（成果を下げずに事業費を削減できないか。） ・実施体制は妥当か。（従事職員数は適正か。） ・市の他事業に類似した事業はないか、また統合できる可能性はないか。・適正な受益者負担を求めているか。			
	優先性	A	・同一施策内での優先度は高いか。 ・事業を廃止した場合、市民生活や市の他施策・事業に影響があるか。			
	総合判定 [20]	B	[理由] 広報広聴は、市政の説明責任を果たす上で、たいへん重要な位置づけである。市政情報提供に対する市民満足度が低いので、掲載内容を精査し、市民の生活に密着した情報をより分かりやすく紙面に反映させるほか、広報紙面とウェブサイトの充実を図る必要がある。			

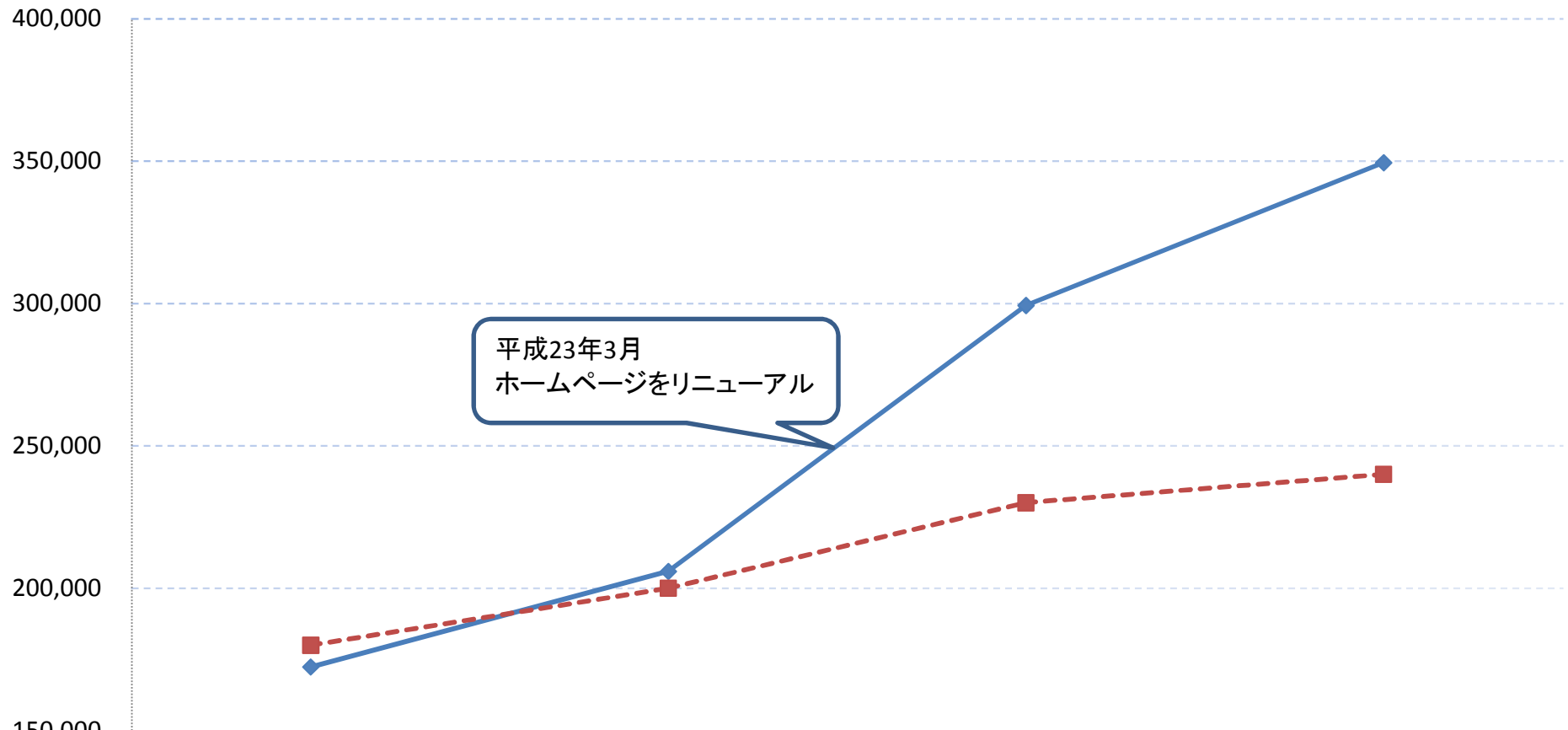
4. 今後の事業の方向性（次年度以降に反映）

事業の方向性 [21]	改善（一部見直し）	実施主体	市
今後の方向性	取組内容(改善内容) [22]	・広報こさいは、インターネットを利用できない市民には、欠かせない広報手段となっている。今後も市民生活に密着した情報を市民目線で、分かりやすい紙面づくりを継続する。 また、ウェブサイトやメディアを通じて本市の魅力などを市内外に発信し、PRする必要がある。 (改善) ・市民意見聴取の機会を増やす…H25.6月からアイデアボックスを市内公共施設14カ所に設置し、市民の皆さんの意見、アイデアを聴取し、今後の市政運営の参考にする。	

日程 (例:4月)	「広報こさい」などが家庭に届くまでの流れ	備考
4/15	<pre> graph TD A[市役所企画政策課] --> B[シルバー人材センターによる配達(業務委託)] B --> C[広報等配達員] B --> D[広報等配達員] B --> E[広報等配達員] </pre>	<p>自治会より推薦された86名</p>
4/15～4/29	<pre> graph TD C --> F[町内会長] D --> G[町内で指定された人] E --> H[組長] E --> I[組長] F --> J[組長] F --> K[組長] G --> L[組長] G --> M[組長] J --> N[世帯] K --> O[世帯] L --> P[世帯] M --> Q[世帯] H --> R[世帯] I --> S[世帯] </pre>	<p>広報等配達員から組長に届くまでの流れは町内会により異なる。</p> <p>おおむね2週間で全世帯配布完了</p>

ウェブサイト年間アクセス件数

資料2



平成23年3月
ホームページをリニューアル

	H21	H22	H23	H24
◆実績	172,366	205,930	299,322	349,445
■目標	180,000	200,000	230,000	240,000

平成25年度 湖西市外部評価 質疑応答要旨

事業名 広報広聴推進事業

質問内容	回 答
市民がより地域のことを知り、自分の地域に対して誇りを持つような記事を書いて欲しい。情報提供のみで、湖西市の魅力が十分に広報されていないと感じている。平成23年度愛知県広報コンクールで特選を受賞した豊田市は小原和紙工芸のテーマで11ページにわたって特集されていた。湖西市には長い伝統を守る職人や第一線で活躍される方もいる。そのような方にインタビューをしたり、1年を通してコラムを書いてもらったり、テーマを絞った特集を時々でもやってみてはどうか。	賞をとったような優れた広報紙の良いところは、真似していきたいと考えておりまして、ご提案を真摯に受け止めたいと考えます。しかしながら、そっくりまねるのは、正直、難しいと考えます。豊田市の広報紙は、28ページで1日と15日の月2回発行を、5人の職員で行っています。湖西市は、1人で月1回16ページの広報紙を作成しています。資料では、市役所だよりの作成と梱包、ホームページの管理まで含めて平成24年度で1,477人となっています。こうした人員配置のため、人力として、豊田市並みに掛けることができません。定数管理で職員数を減らしている中で、広報においても携わる職員を増やすのは難しいのが現実です。ご指摘の活躍されている人へのインタビューや一年を通してのコラムなど、「豊田佐吉特集をするとか」できそうなところは、できる限りの努力をもって取り入れていきたいと考えます。
紙面の編集について、特集記事（トップ記事）には正直不満を感じている。広報紙表紙には、毎月市民協働で創る。「市民が誇れる湖西市」と掲載している。ところが、広報紙の記事は行政サイドの内容、お知らせ記事が目立ったものとなっている。市民協働の紙面づくりとして、市民参画型の広報紙、市民に視点を当てた特集記事を取り上げる考えはないか。広報は、市民と行政の架け橋となり、市民と市民の交流の場であると考え。市民の登場・声・顔・活動・取り組みなど身近な地域の問題に視点を置くことが重要と思うが。	「広報紙の役割をどう考えるのか」について、行政から市民に必要な情報を伝えるのが、第1の役割であると考えます。市民に必要な情報とは、市民が登場し、市民の声・活動・取り組みなどを紹介することではないと考えます。身近な地域の問題を紹介することは大切なことだと思えますが、それは、市民と市民をつなぐものであり、行政と市民をつなぐのが自治体広報紙の役割でありますので、「行政と市民をつなぐために、行政の情報を市民に判りやすく伝えること」が第一の役割と考えます。広報湖西は、年12回発行しますので、そのうちの何回かを「市民活動を紹介する特集」にすることは可能だと思います。具体的に紹介してほしい市民活動のイメージがあれば、ご意見を承りたいと考えます。
取材を重視した広報紙づくりについて、がんばり、汗する姿などスポーツ・社長の理念・店主の登場・健康づくり・湖西市出身者のお便りなど市民サイドの興味のある話題として、人物に焦点を当てた取材による編集についての考えは。励みにもなるし、参考にもなるのでは。	取材は毎月行っています。具体的には先の8月号での、表紙のプールの写真、最終ページのトピックスに掲載の、新所あじさい祭り、アスモ弓道部の全日本勤労者弓道大会での優勝、湖西市消防団の西遠支部消防操法大会での優勝、これらを取材し写真入りで紹介しました。また、99歳おめでどうで表彰した人の家にも行って見ました。他にも、8020コンクール「80歳で20本の自前の歯を持つという運動」を取材し、1ページ丸ごと使って紹介に充てました。ご指摘の「人物に焦点を当てた取材」や特集記事も可能で面白いと思いますが、人を紹介する場合「なぜこの人が」とか「なぜ、この人だけが」という声があるのでありますので、難しい面はあるかと思えます。
一方的な事業とならないためにも広聴の24年度実績が「ふれあいポスト」が131件、「あなたのアイデアを市政に」は17件と少なくはないか。増やす手立ては何か検討しているのか。採用実施したものをうまく広報手段として載せてみてはどうか。	どちらもアイデアというより、実際のところ意見や苦情の類が多いので、全体で148件、月12件としてみればこのくらいが適当だと思います。本年度、アイデアを増やす手段として考えたのは、広報こさいに折込料金受取人払いの手紙「あなたのアイデアを市政に」が、投稿件数が少ないのでやめまして、市内の公共施設14か所に「アイデアボックス」を設置しました。これは、誰でもいつでも投稿できるようにということで、投稿用紙を付けたポストを用意しまして、年4回テーマを決めて、それに対するアイデアをポストに投函していただくものです。先日も、小学6年生の児童から、「あいさつ週間を設け部隊を街中に出したらどうか」というアイデアを頂きました。返事の手紙を出そうかと考えています。なお、採用したアイデアについては、ウェブサイトに掲載することにしております。
配布方法について、ニーズは様々であると考え、可能であれば各戸の実態アンケート等で調査し、広報誌の必要性、配布の必要性を改めて考え直し、印刷部数の見直し等行ってみてはどうか。回覧のみで良い家庭、配布の必要な家庭の確認や、配布方法の変更、例えば地域センター等へ配布用の設置なども検討してはどうか。	全戸に配布できるように20,400部印刷して配付しています。中には、見ない世帯や要らないという家もあり、個々に対応できればそれが理想的ではあると思いますが、行政情報は税金を納めていない世帯にも配るべきものと考えています。「回覧でもいいよ」というところもあると思いますが、要らなくても届けるのが、行政としての使命であり、いるいない、回覧でいい、という個別の要望には応えきれませんので、最大公約数である全戸配布で対応しているのが実情です。なお、主要な公共施設へも配架をしており、手元に届かないという人にも案内をし、取りに行ってくださいようお願いもしています。

平成25年度 湖西市外部評価 質疑応答要旨

事業名 広報広聴推進事業

質問内容	回 答
<p>広報紙の配布先と配布方法について、広報紙の配布の流れからみると、自治会に加入していない人には配布をしていないのか。</p> <p>広報紙は税金を収めている全世帯に配られるべきものであり、配布方法を自治会やシルバー人材センターなどに直に一括委託したらどうか。</p>	<p>広報紙が自治会から届かない人には、「最寄りの公共施設に置いてあるので取りに行ってもらいたい」と案内しています。広報紙は、市政情報を市民に伝えるべきものなので、税金を払っている・いないにかかわらず、全市民に届けるべきものと考えておりまして、方法としては、郵送か公共施設に取りに行くかで対応ができています。現状、入手ができないという問題は認識していません。</p> <p>例えば、個別に配布する方法として郵送が考えられますが、広報紙だけの単純な郵送料で計算すると、定形外56gの単価140円*20000部*2回(1日、15日)=560万円、封筒代、封筒に入れる労力、宛名を印刷して貼る労力、他の回覧物や、配布物の同封、こうしたものを考えますと戸別配布的な対応は非現実的と考えます。これまでの長い間構築してきた今のシステムが、費用対効果的に最善と考えます。</p>

評価結果詳細

事業名	1 広報広聴推進事業	外部評価結果（評価員10人）				
事業内容	①「広報こさい」の発行（毎月1回 15日に発行） 地域の出来事や生活に密着した情報を市民に提供するため、全世帯を対象に「広報こさい」を発行する。 ②「市役所だより」の発行（毎月2回 1日・15日に発行） ③「市ウェブサイト」の運営 市広報活動の一環としてウェブサイトを活用し、イベント情報や広報紙等の情報を発信する。 ④広聴活動 ウェブサイトの「ふれあいポスト」、「あなたのアイデアを市政に」で広く市民から意見・提言をもらう。	A	B	C	D	E
		継続	改善			廃止
			その他	一部改善	実施主体の変更	
		5	5	0	0	0
評価理由・改善案 主な意見（評価員）	<p>【A 継続】5人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたのアイデアを市政に」への投稿数が少ない点が気になるが、今後改善策を検討・実施していくことがわかった。広報紙を全世帯に配布すべきだとは思うが、自治会に加入していない市民に対して今後どのように対処していくか、他市の実施方法も参考にしていくべき。 ・市民に見てもらえる紙面づくりをお願いします。広告掲載の効果を検証するべき。ソーシャルメディアの活用をして情報発信を。 ・広聴活動の充実を図り、質の向上を目指すべき。 ・市民が興味を持てる内容づくりが必要だと感じる。そうでなければ広報紙等の中身まで見ない。（内容がマンネリ化している。）魅力あるコンテンツづくりが必要。 ・満足度の目標値が50%以上ではなく、60～70%以上の満足度が必要ではないか。 <p>【B 改善:その他】5人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広聴事業が弱い。若い人など幅広い世代から意見を得られるような情報媒体のあり方を考えるべき。また、地域をもっと好きになってもらえるような広報記事を期待する。 ・現状社会に合った活動としてほしい。自治会未加入者にはウェブの利用を案内しているのであれば、全戸に広げていただきたい。 ・誌面の内容をよりよくする検討会議などをお願いしたい。配布方法・情報発信について制度改正や選挙など必要な情報が届きにくく、人に情報が届くよう検討してください。 <p>主な意見（評価員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報に行政サイドの内容、お知らせ記事が目立つ。市民参加型としての広聴部分が不足。取材を重視した地域・市民に視点を当てた紙面作りを目指してほしい。市民記者の登用。 ・広報こさいは必要ですが、来月の案内が主なのでもう少し早く家庭に届くよう、タイムリーな配送方法の改善が必要。 					